

寺田寅彦博士の生誕 150 年を祝し、NHKの朝ドラ化を願う会

● 東京生まれの高知育ち

寺田寅彦は、著名な地球物理学者であり随筆家である。大きな災害のたびに繰り返される格言「天災は忘れられたところにやってくる」は未来永劫消えることのない教えである。最近では「ねえ君ふしぎだと思いませんか」の言葉がオーテピア図書館前の銅像とともによく使われるようになってきた。（博士は東京生まれだが、ご両親が高知出身である。3歳から18歳までを高知で過ごし、江ノ口小学校・高知県尋常中学校（現高知追手前高等学校）を卒業した。）

● 夏目漱石との運命的な出会い（水島寒月は寺田博士がモデル）

寺田寅彦の恩師は夏目漱石である。熊本五高に進んだ寺田は、愛媛の中学を退職して、五高の教員として着任した夏目漱石と運命的な出会いを果たしている。英語の先生と生徒の関係であった二人を結びつけたのは、親友・T君が英語のテストをしくじったおかげである。「英語の点をもたらう運動委員」に選ばれた寅彦は、初めて個人的に夏目邸を訪問し、英語の話の後で「ところで先生、俳句とはどんなものですか」との問いを発している。それは夏目漱石と正岡子規の二人が俳句を通して親しい間柄にあることを知ったうえでの質問であった。漱石は「俳句はレトリック（修辞）の煎じつめたものだ。扇の要のような集中点を指摘し、描写して、それから放散する連想の世界を暗示するものと思えばよい。…」等と語ったと伝わっている。この俳句問答を通じて二人の師弟関係は一気に縮まってゆく。そして、寺田博士はこれ以降「俳句、随筆、小説、絵画、音楽、映画評論…」等々、それまでの未知の分野で優れた活動を積み重ねていく。また、夏目漱石を一躍ベストセラー作家に押し上げた『吾輩は猫である』に登場する水島寒月は、寺田寅彦がモデルである。さらに『三四郎』の野々宮宗八も寺田寅彦がモデルだといわれている。

● ノーベル賞が…!?

研究面では、寺田寅彦は日本の「X線結晶学の元祖」ともいわれる業績を残した。1913年には「X線と結晶」という論文を「ネイチャー」に掲載するも、イギリスのブラッグ親子が同様の研究を「ネイチャー」誌上に発表した直後であった。ブラッグ親子は1915年に「X線による結晶構造解析に関する研究」によってノーベル物理学賞を受賞している。寺田博士は1917年に「『ラウエ』映画の実験方法及其説明に関する研究」によって帝国学士院恩賜賞を受賞した。

多方面に活躍した寺田博士を、日本の「レオナルド・ダ・ヴィンチ」と呼ぶ人もいるくらいである。また、1923年の関東大震災の直後には震災の被害状況や震災火災の調査に尽力し、精力的に活動した。そして予知は難しいとの立場から警鐘を鳴らし続けている。一連の活動の中で「天災は忘れられたる頃来る」という名言が生まれたとされるのは一番弟子の中谷宇吉郎博士（世界初の人工雪の研究開発者）の証言によるものである。

その後は、東京帝国大学の教授となり、実験物理学や地球物理学の講座を担当された。また地震研究所や航空研究所、理化学研究所等で重要な研究に携わり、若い研究者たちに多くの示唆を与え続けた。「ねえ君ふしぎだと思いませんか」は博士の口癖であったようだ。

● 牧野富太郎博士との交友

高知市の寺田寅彦記念館の正門に牧野富太郎博士の文字が刻まれている。「寺田寅彦先生邸址」と「天災は忘れられたる頃来る」である。寺田博士の同級生であり、日本の魚類分類学の創始者である田中茂徳博士の回想が興味深い。「土佐で一番偉いのは誰か」との質問に二人は期せずして両者の名前を即答した。これは全く別の日に田中博士が両博士に問いかけた際の回答であるとのこと。二人が相互に尊敬しあっていたとも伝えられる所以である。

● 永福寺門前事件（井口事件）

余談だが、寺田博士の父・寺田利正と坂本龍馬は同じ時代を生きた郷土である。また、土佐勤王党結成の端緒になったともいわれる永福寺門前事件の主演は利正の実弟（寅彦の叔父）・宇賀喜久馬である。（詳細は安岡章太郎の『流離譚』（新潮社）等をご参考にいただきたい。）

● 奥様との別れ

博士は家庭的には辛いことが多かった。何ととっても、奥様を二度も亡くされている。最初の夏子夫人とは、わずか5年間の夫婦生活でご長女を授かったものの死別となった。二番目の寛子夫人とは、12年間の夫婦生活で4人の子宝に恵まれたが（二男二女）大正6年10月19日に一晩

のうちに体調を崩されての死別となった。三番目の紳夫人とは、博士が57歳で他界するまで一緒であった。(山田一郎の『寺田寅彦～妻たちの歳月～』(岩波書店)に詳述されている。)

● 南海トラフ巨大地震へ… (寺田博士の教えに学ぼう！)

こうしたリアル・ストーリーをお持ちの寺田寅彦博士なので、NHKの朝ドラに登場すれば、お茶の間の視聴者を引きつけて離さないと考えるものである。ただ、高知市民・県民も寺田博士について十分に理解しているとは言い難い状況がある。ついては、寺田寅彦博士の生誕150周年(2028年、令和10年)に向けて「寺田寅彦博士を朝ドラで顕彰しよう！」という呼びかけをしていきたい。博士は100年前の関東大震災(M7.9)を体験し、震災の被災状況や火災の原因等についても精力的な調査研究を重ねたと聞く。また、様々な提言が現代社会にもそのまま通用する点が素晴らしい。したがって、この朝ドラへの取り組みを進めながら、私たち一人ひとりが寺田博士の著作等から防災への取り組みを学び、迫りくる南海トラフ巨大地震(M8~9)への身近な備えをしていくことが、実はいちばん大切なことだと思う。

NHKの朝ドラに「寺田寅彦博士」～連想の人～ をとりあげていただきたく心からお願い申しあげます。

日本放送協会 御中

寺田寅彦博士の生誕150年を祝し、NHKの朝ドラ化を願う会

宮 英司 松本 順子 田口 保雄 伊東喜代子 梅澤 俊一
山田 功 岩崎 正春 福留 孝彦 岩崎 佐由 橋田 憲明
宮崎 嗣生 四宮 義正 野村 学 副田 謙二 恒石 直和
若林 章 名和 真一 田村 倫子

	住 所	氏 名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

- ※ ご協力いただいた個人情報、この署名の目的外には絶対に使用いたしません。
- ※ 署名は、寺田寅彦記念館友の会(高知市小津町4-5)へお届けください。(088-873-0564)
- ※ 用紙は、<https://tera-tora-tomo.sakura.ne.jp> から取り出してください。

【2028年】 寺田寅彦生誕150周年へ向けて (1878年11月28日～1935年12月31日)

寺田寅彦博士の生誕150年を祝し、NHKの朝ドラ化を願う会

● NHKの朝ドラへ！

寺田寅彦を生誕150周年(2028年)で朝ドラの主人公にしよう…という運動です。お互いに尊敬しあっていたと伝わる牧野富太郎が2023年に朝ドラ「らんまん」となった今、次はぜひ寺田寅彦の人生を描いた朝ドラをお願いしたいと思います。

● 優れた弟子を輩出した寺田寅彦研究室を伝えていこう！

- ・中谷宇吉郎(北海道大学教授、人工雪の製作、理学博士)
- ・藤原 咲平(中央気象台長、東京大学教授、理学博士)
- ・宇田 道隆(東京水産大学教授、海洋物理学、理学博士)
- ・坪井 忠二(東京大学教授、地球物理学、理学博士)
- ・平田 森三(東京大学理学部長、表面エネルギー、「割れ目」の研究)

● 木曜会メンバー(夏目漱石邸に集いあったメンバー)

- ・小宮 豊隆(独文学者、文芸評論家)
- ・安倍 能成(哲学者、文部大臣)
- ・鈴木三重吉(小説家、童話作家)
- ・野上豊一郎(英文学者、能楽研究者)
- ・野上弥生子(小説家、豊一郎夫人)
- ・和辻 哲郎(哲学者、東京帝国大学教授)
- ・内田 百閒(小説家、随筆家)
- ・阿部 次郎(哲学者、東北帝国大学教授)
- ・谷川 徹三(哲学者、法政大学総長)
- ・松根東洋城(俳人、宮内省式部官)
- ・中 勘助(作家、詩人)
- ・森田 草平(作家、翻訳家)

● 寺田博士を知るための参考文献として、以下の書籍を推薦します。

- 「寺田寅彦の風土」 山田一郎 著 (高知市民図書館)
- 「寺田寅彦～妻たちの歳月～」 山田一郎 著 (岩波書店)
- 「寺田寅彦覚書」 山田一郎 著 (岩波書店)
- 『藪柑子集』の研究～続寺田寅彦覚書 山田一郎 著 (高知市民図書館)
- 「寺田寅彦」 宇田道隆 著 (国土社)
- 「寺田寅彦 その世界と人間像」 太田文平 著 (都市出版)

● コミック本から入るのも楽しい！ (文豪4コマ)

「先生と僕」 ～夏目漱石を囲む人々～ 香日ゆら 著 (KADOKAWA)

因みに、夏目漱石を囲む人々相関図には「熊本の第五高等学校時代の漱石の教え子。物理学者、随筆家、俳人。筆名は吉村冬彦。」(一目置いて認めている)と…。

● SDGs (持続可能な開発目標)

目標9 … 持続可能で災害にも強いインフラを整備すること

目標11 … 持続可能な都市や安心・安全な居住を実現すること

100年前の関東大震災と対峙した寺田博士が力を込めた警鐘の言葉と重なり合います。

● 寺田博士のうた

「好きなもの 苺 珈琲 花 美人 懐手して 宇宙見物」